

SSH活動報告

関東近県SSH校合同発表会(3月18日/芝浦工業大学豊洲キャンパス)

口頭発表 「ウイングレットと揚力の関係」

3年10組 三村 惟流



ある程度の予備知識を必要とする課題実験の内容を、発表会に参加していただいたすべての方に理解してもらうことは並大抵のことではない—これがまずプレゼンテーションの準備に伴って出てきた課題でした。自分では十分にわかっていることでも、思いもよらぬところで聞き手に理解してもらえないことがあります。友達や多くの先生方がくださったアドバイスや意見に助けられて、最終的にはこの問題を解決することができました。

また、ポスター発表では、私と同じ分野を実験している他校の生徒と巡り合うことができました。お互い多くの共感や意見を得ることができ、たいへん有意義なものになりました。この出会いに感謝するとともに、発表の準備の時に多くの友達や先生方の協力があってこそ成功することができたという、周りの人に対する感謝の気持ちも忘れずに、これからの発表会を楽しみにしながら今後の課題研究に精進していきたいと思えます。

ポスター発表 「アイトラッキングの応用 ～眼鏡型コンピュータの提案～」 3年10組 西 雄作



今回の発表会に参加して、自分のプレゼン能力の低さがとても残念でなりません。他の生徒と比べて格段に発表が下手だったというわけではないと思いますが、自分が納得できるような、極めて優秀な発表ができなかったことは残念でなりません。ここまで自分に自信を持っていたことには理由があります。私は校内SSH中間発表会では情報班の代表として1・2年生の前で発表し、一定の評価をいただくことができました。こうして間違えて作った自信に邪魔されてしまったため、中間発表会から関東近県発表会までの時間を無駄にしてしまったのです。中間発表会で得た評価に間違いはないと思いますが、その評価にうねられる必要はなかったはずでした。

私のSSH活動期間はあと1年を切りました。私は残された期間で時間の無駄をなくし、ひたすらに研鑽を積むことを約束します。

ポスター発表 「水槽内の貝の有無による水質の変化」

3年10組 森川 康熙



私は初めてこのような大きな合同発表会に参加しました。ポスター発表の時間では、立ち止まってくれる人が多くて少し驚きました。自分は人前に立って発表することがあまりなかったため、発表時にかんだりすることが多々ありましたが、良い経験になりました。

その時の質問で最も多かったのは、「なぜドブガイを使ったのか、どんな貝なのか?」ということです。ドブガイは淡水に棲む二枚貝で、川や沼の泥中に生息しています。貝は水中の不純物を取り込むとされ、ペットショップでも安価で手に入ります。タナゴの産卵場所としても使われます。

本実験では短期間であったためにデータを十分に取れなかったため、今後は条件を増やしつつ、継続していこうと思っています。

SSH活動速報

4月 7日	サイエンス基礎	井上徳之先生(中部大学教授)による科学プレゼンテーション基礎
4月 9日	高校現代文明論	ガイダンス、現代文明観に関するアンケート
4月12日	高校現代文明論	校長講話「明日へのメッセージ」
4月13日	公共科学論	ガイダンス、科学観・公共観に関するアンケート
4月13日～	科学文明論II	科学文明に関するグループリサーチの開始(全18回)
4月14日	サイエンス基礎	日本科学未来館(江東区)での科学プレゼンテーション実践(詳細は下欄を参照)
4月16日	アカデミックプレゼンテーションII	Overview and introduction to sharing opinions
4月16日	課題実験	研究内容に関する面接の開始(全2回)
4月17日～	課題研究	個人・グループ研究の開始(全16回)
4月18日	探究活動I	ガイダンス、科学的な諸能力に関するアンケート
4月18日～	アカデミックプレゼンテーションI	CLIL(内容言語統合型学習)によるBiologyに関する英語での発表の開始(全5回)
4月20日～	公共科学論	英語科教諭によるユニット授業「科学と言語と公共」の開始(全3回)
4月21日	サイエンス基礎	国語表現演習「言語に関するミニ課題研究」のガイダンス
4月23日	アカデミックプレゼンテーションII	Sharing opinions, emphasis, and agreeing and disagreeing
4月24日～	高校現代文明論	映像教材「名利なき証言」を活用した科学観の涵養(全2回)
4月25日～	探究活動I	ブレ探究活動(ユニット学習)の開始(全3×3回)
4月28日	サイエンス基礎	実験数学「正多角形・正多面体についての考察」(全3回)

講座 Information 「サイエンス基礎」(1年SSHクラス)

サイエンス基礎は基本的に土曜日の午後に開講しています。研究成果を聴衆に伝えるための技術を学ぶ「科学プレゼンテーション(日本語・英語)」や生徒主体の問題解決型授業「実験数学」、言語についての研究を行いながら論文の書き方を学ぶ「国語表現演習」などの講座が用意されています。環境・物理・生物・化学の各分野における先端領域の知識や技能を学ぶ「リベラルサイエンス」では、外部講師による講義や研究施設訪問、フィールドワークなども予定されています。

今回は毛利衛氏が館長を務める日本科学未来館を、TA(ティーチングアシスタント)の上級生と一緒に訪問しました。後期には毛利氏や他の日本人宇宙飛行士への英語カリキュラムを作成した、Gary Vierheller先生による英語プレゼンテーション指導もあります。この講座では、自ら課題を発見・解決する能力や情報収集力、発表能力の育成を目標としています。

今後も1年生SSHクラスの生徒たちの成長を温かく見守ってください。よろしくお願いいたします。

